

(様式2)

平成 29 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100069		
法人名	株式会社東日本福祉経営サービス		
事業所名	グループホームおやの家		
所在地	新潟県新潟市江南区亀田向陽1丁目8番7号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaignkensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaignkensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年1月16日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームおやの家は、亀田駅東口徒歩3分に位置し、公共交通機関をご利用しやすく、知人やご家族の訪問の際、便利だと喜ばれています。また、医院や薬局が周辺に整っていることもご家族の安心に繋がっています。

・建物内には同法人の介護付有料老人ホームが併設されており、ご入居者同士が行事の際や散歩など行き来し、より多くの方との交流を図れるよう取り組んでいます。

季節行事は年間計画を立て、併設施設の介護付有料老人ホームと連携しながら、新年会、節分、敬老会、夏祭りなどを共同で行い、馴染みの方以外との交流を図る事で良い刺激となっています。

また、運動会、歌合戦など事業所の垣根を越え、チーム対抗で行える行事を計画し、意欲を促しています。

・リスクマネジメント、防災、研修、行事、感染症対策などの各委員会を併設施設と合同で設置し、連携しながら委員会活動を行っています。

・人材育成への貢献として施設実習や市内専門学校(介護福祉学科)学生のグループホーム実習を定期的に受け入れております。また、地元の中学生や高校生の職場体験、ボランティア活動等も定期的に受け入れ、ご入居者が地域との交流を図れるよう取り組んでいます。

・近隣の保育園から定期的に園児が遊びに来られ、出し物などを披露して頂いています。

・介護やご入居者に関わる記録すべてをタブレットに入力し、データ化しています。データ化により、バイタルや排泄記録、食事摂取量などをパソコン上で抽出する事で容易に把握ができ、ご入居者の体調の変化を見落とすことなく健康管理が行えています。また、職員もタブレット上で記録の閲覧、伝達事項の確認等がスムーズに行え、職員間の申し送り徹底、情報共有の強化ができています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人が運営する介護付有料老人ホームに併設されており、1階が当事業所で2階から4階が有料老人ホームとなっている。事業所の内部はダイニングとリビングが別々になっており、中庭が眺められるなどゆったり過ごせる造りになっている。また、JRの駅に近く、周辺には広い公園や、障害者が多く利用する公共施設があるなど、環境に恵まれている。

様々な情報について、職員がタブレットを駆使して共有し、利用者支援に役立てている。また、家族との情報共有も心がけており、広報紙の発行のほか、毎月、写真付きのたよりを担当職員が作成して送付するなど、利用者や家族を大切にされた支援が行われている。

併設の有料老人ホームとは日常的に連携しており、毎月、合同の全体会議を開催したり、研修会や避難訓練、季節の行事、様々な委員会活動も合同で行われるなど、しっかりとした支援体制が整っている。他法人の事業所とも運営推進会議等で交流があり、意見をもらうことで事業所の運営や日々の利用者支援について客観的に見つめる機会となっている。有料老人ホーム施設長、事業所管理者、職員は話しやすい関係を築いており、意見を出し合い、また、交流のある他事業所からも意見をもらいながら、より良いグループホームづくりに取り組んでいくことが大いに期待できる事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまではグループホームの理念を年度ごとに考え、掲示していたが、事業所内に浸透せず、形だけのものとなっていた。すでに浸透してる法人理念を再度、見つめ直し、毎朝の朝礼にて唱和を行っている。	これまで毎年、事業所の理念を考えてきたが、企業理念、運営理念を重視することに切り替え、毎朝、朝礼で唱和している。年1回の職員へのアンケートでも理念に関わる項目があり、振り返る機会となっている。アンケート結果は職員に報告され、運営にも活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設事業所との合同で行う大きな行事の際には近隣住民への案内の配布や自治会への回覧等行っている。地域の高校生や保育園児を招いたり、中学生の体験学習の受け入れを行っている。地域のクリーン作戦には参加できなかった。	自治会に加入し地域のクリーン作戦などの活動に参加している。近くの保育園児が敬老会に歌や踊りを披露しに来てくれたり、高校のボランティアサークルの月1回の訪問や中学校の体験学習の受け入れも行っている。事業所の夏祭りなどの行事には地域の方に案内をして来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な施設実習の受け入れのほか、中学生の体験学習を毎年受け入れ、福祉の職場体験を支援している。認知症の対応についてはご相談を頂いた場合にに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣のグループホーム施設長、地域包括支援センターの職員、近隣の特別養護老人ホームの施設長、ご入居者、ご家族、近隣住民の方々にご参加頂き、意見交換の場を設けている。行事の実施状況や事故発生状況などを重点に報告を行い、助言を頂いている。	会議は、利用者、家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員、他法人の特別養護老人ホームやグループホームの施設長等をメンバーに開催している。事業所の状況報告のほか、その時々で様々な話題が出されており、食事のアイデアや、外出先の提案、事故対応や健康管理についてのアドバイスをもらい運営に活かしている。毎回、行事報告は写真付きの資料として提出するなど、出席者に理解を深めてもらう工夫がされている。	自治会長は1年交代で連携を深めるのが難しく、メンバーの欠席者が多い状況ではあるが、日頃の交流を深めたり、参加者にもメリットが得られる内容にするなど、出席してもらう工夫をし、より充実した会議となるよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営についての相談は他事業所との統一性を図る為、主に法人本社の担当者が窓口となり、新潟市の福祉部高齢者支援課に助言やご指導を頂いている。地域包括支援センターの職員に運営推進会議の構成委員として参加して頂くほか、他事業所での運営推進会議に参加した際にも包括支援センターの職員を交えた意見交換を行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席しており、事業所の状況を理解してもらい、意見ももらっている。制度等の質問や相談は会社の担当者から市の担当者に連絡して助言をもらうなど関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は、日中(7:00~20:00)は解錠されており、ドアホンチャイムの音で出入りの把握をしている。身体拘束はしないという共通認識のもと、マニュアルを整備し、ホーム会議、内部研修、勉強会で周知している。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、毎年1回は併設の有料老人ホームと合同で研修を行っている。また、リスクマネジメント委員会で身体拘束や虐待に関する事例について把握、検討し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に併設介護付有料老人ホームと合同で研修を行ったり、アンケートで意見を募ったりと、職員間での理解を深めている。法人単位でも職員に対して虐待について意識の向上を図る為、職員への個別面談を実施している。	虐待に関するマニュアルを整備し、定期的に内部研修を行っている。また、どんなことが虐待にあたるかなど職員にアンケートを実施し、職員それぞれが考えるきっかけになっている。アンケート結果はまとめて職員に配布している。	アンケートで出された虐待と思われる内容や、グレーゾーンのケアについては、事業所としての見解や対応を統一して職員に示すことをこれからの作業として行う予定であり、今後のさらなるケアの向上に向けた取り組みに期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用の該当者はおられないが、制度についての理解を深められるように職員に伝達、指導している。制度についての理解や利用に繋げる事ができるようパンフレットを玄関フロアに置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、重要事項説明書を用いて理解が得られるよう説明し、契約締結を進め、改定時は家族会などの開催や文書での提示により利用者本人に同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口については併設介護付有料老人ホームと共用の玄関案内板に掲示し、意見箱を玄関に設けている。利用者ご家族代表の方に運営推進会議に出席をお願いし、毎回ご意見を頂いている。3月に匿名アンケートを実施。6名のご家族に意見を頂いた。	運営推進会議で意見をもらったり、家族への無記名のアンケートを実施して結果を家族に郵送している。普段から意見を出しやすい雰囲気作りに努めており、出された意見については連絡ノートやタブレットに記録して職員間で共有し、日々のケアや運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同全体会議とホーム会議で職員の意見や要望を収集し、ホームの運営に反映させている。半年に1回は個別面談を実施し、運営方針についての意見を把握している。中堅職員1名が毎月1回本社の研修会に参加し、知識の向上を図りながら本社職員と意見交換を行っている。	月1回のホーム会議のほか、毎月、併設の有料老人ホームと合同全体会議を行っている。合同全体会議は同じテーマで2日間行い、多くの職員が参加できるよう配慮している。また、人事考課として有料老人ホーム施設長との面談を年2回行うほか、その都度、職員の意見を聞いて、事業所の運営に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、全職員の人事考課を行い、各職員の勤務状況を把握、評価し、賞与に反映させている。資格(介護福祉士)手当の厚遇をし、条件を整備させている。必要時には個別面談を実施し、労働時間等の相談に乗っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行う研修に参加したり、毎月併設介護付有料老人ホームとの合同での研修会を実施し、常にモチベーションの向上を意識できる環境が整備されている。新人職員へのOJTを行い、未経験の職員でも時間をかけて業務が習得できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設介護付有料老人ホームと委員会活動や研修、勉強会などを行い、交流することで職員がお互いに切磋琢磨できる環境を作っている。 法人が介護労働組合に参加しており、他法人との交流会やイベントなどを職員向けに開催している。年始に行われる地域の介護サービス事業所の交流会に管理者が参加することで地域でのネットワークづくりを図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前調査を行い、ご本人の希望、思いなどを傾聴し、入居後の関係づくりの為に情報収集に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や事前調査時にご家族の不安や要望を聞き、その解消に向け、より良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。ご家族から意見、要望を話しやすい雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時には入居前の環境や介護量を把握し、これまで困っていること、今までの介護内容などから、これからの対応を検証するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と要介護者という関係性でなく、ご本人の意見を取り入れられる対等の関係性を築いている。ご本人ができることは尊重し、さりげなくお手伝いをするという意識を持ち、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には日常生活の様子を伝えると共に情報共有に努め、意向を伺い共に支えていく関係を築いている。受診付き添いや外出支援などの協力を出来る範囲でお願いする事でご本人との関わりを積極的に持って頂いている。 月に一度生活の様子をお便りにてお伝えし、ご本人との距離をより近く感じて頂けるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回発行の事業所の広報紙のほかに、担当職員が毎月写真付きのたよりを家族に送付して利用者の様子を伝えている。職員は日頃から面会に来やすい雰囲気作りに努めており、家族が来られた際は本人の様子を伝えて情報共有を図っている。面会になかなか来られない家族には電話で様子を伝えている。また、家族には通院の付き添いや外出、外泊などの協力をお願いし、本人を共に支える関係を築くよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はじめ、友人、知人などの関係を把握し、話題に取り上げるなど工夫しながら、訪問時などには積極的に関わる事で各々の関係を大切にしていけるように支援している。外出や外泊を推奨し、より広い関係性を保てるよう尊重している。	入居時に、本人や家族等の話から馴染みの人や場の情報を得るほか、入居後も普通の会話の中から情報を得ることも多い。友人や近所の方が会いに来た時は歓迎したり、家族に外出、外泊をお願いして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活を観察しながら、それぞれの利用者が馴染みの関係になれるような関わり方を持って頂き、孤立しない関係づくりを支援している。男性、女性分け隔てなく、関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や訪問の際には最近の様子を伺い、必要な時には相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを通して利用者の希望や思いを伺っている。ご家族にも意向の把握にご協力頂いている。	入居時や入居後も困っていることや食べたいものを聞いたり、普通の会話や様子から思いや意向を把握するよう努めている。得られた情報はタブレットに記録して職員間で共有するとともに、必要に応じて家族にも伝えられて支援に活かされている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や本人、あるいは家族の話等を伺いながら生活歴や生活環境を聞いている。 伺ったことを記録に残し、全職員で情報共有することで日常のケアに活かしている。 新しいフェイスシート様式を作成し、全体像を把握しやすいよう努めている。	入居時に自宅を訪問したり、これまで関わっていた居宅のケアマネージャーや本人、家族の話から生活歴や暮らしぶりなどの情報を得ている。それらはフェイスシートに記録し職員間で共有している。その後得られた情報もその都度、記録、更新していき、趣味や特技を活かす活動など日々のケアに活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、一人ひとりの心身の現状把握に努めている。 職員全員が共通認識を持ち、それぞれの個性に沿った支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望を踏まえ、介護職員の意見を聴取しサービス計画を作成している。サービス計画作成時は介護職員でカンファを行い、意見を収集。ご家族やご本人と課題を共有し、方向性についての同意を頂いている。ホーム会議にて毎月カンファレンスを行い、現状の支援についての確認を行っている。	入居前に暫定の介護計画を立て、入居して1ヶ月後に担当職員と管理者とでアセスメントを行い、本人、家族を交えてサービス担当者会議を開催して介護計画を作成している。ホーム会議で職員から意見をもらいながら、毎月、担当職員が評価を行い、3か月ごとにモニタリングを実施して、定期的の見直しや必要に応じて随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを用い、個別の介護記録を細かく入力している。内容の周知は申し送り機能でタブレット上にて行い、気づきや工夫は連絡ノートにて共有している。介護計画に沿ったケアが出来ているかタブレットで日々確認をし、見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な歯科往診や訪問理容のほかにも、併設事業所と連携することで、体調の変化による急な往診を内科、歯科とも実施している。また、合同での行事に参加することでホーム外との交流を盛んに行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や駅などへ散歩に出かけたり、地元の高中生や中学生、保育園児などの来訪があり、活力を得られるような交流を支援している。希望がある方には訪問マッサージの利用を案内し、満足度向上に繋がった。地域のグリーン作戦には今年は参加できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期往診を基本としながらも、特変時には主治医、及び協力医療機関に連絡し、指示を仰いでいる。希望者にはこれまでのかかりつけ医を継続し、今まで通りの健康管理ができるよう支援している。	入居時に、本人や家族の意向を聞いてかかりつけ医を決めている。事業所の協力医が週1回訪問診療に来ていることから、協力医に変更する利用者が多い。協力医以外の受診の付添いは基本的に家族にお願いしており、本人の様子を記載した書面を持って行ってもらうなど、適切な医療が受けられるよう家族、医療機関と連携しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置がない為随時、主治医や協力医療機関との連携、ご家族との相談を密に行いながら対応している。介護記録をデータ入力により随時抽出できる為、スムーズに医療機関への情報伝達ができています。併設介護付有料老人ホームの看護師を講師とした研修会に参加し、知識向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いを兼ねて、状態把握を早期に行い、病院との情報交換を図り、早期退院に向けた相談支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状が重症化する前にご家族と相談しながら、どうしたらより良い支援が出来るか話しあっている。重度化が進んだ場合はホームでできること、困難なことをオープンにし、併設施設とも連携しながら今後の方針についての話し合いを行っている。現在看取りは行っていない。	入居時に医療面の対応や、食事・入浴の対応など、事業所でできることと難しいことについて説明している。状態の変化があった場合はその都度家族と今後の対応について相談している。入院時は、事業所での生活が継続できるかなど、医療機関も交えて今後について話し合っている。	入居時に重度化した場合に事業所でできること等について説明しているが、今後は指針を明文化し、それによって本人、家族に説明することを望みたい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急とAEDの研修を平成28年2月に実施している。事故、急変時用マニュアル、非常災害用マニュアルを新しく整備。フローチャート、連絡網等を見える場所に掲示している。	誤嚥、転倒、骨折、火傷など、事故発生時の対応マニュアルや緊急時対応のフローチャートをそれぞれに細かくそろえており、毎年、AEDの取り扱い方や、心肺蘇生法の研修及び、併設施設の看護師を講師に感染症等の研修を行っている。また、利用者一人ひとりの特性をふまえて危険を予測し事故に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。防災訓練には近隣住民の方にも協力や参加を募っている。施設長が運営推進会議の構成委員でもある近隣の特別養護老人ホームと非常時の協力体制を築いている。法人内で統一されたマニュアルを整備。非常災害をテーマに管理者向けに社内研修を行った。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署に立ち会いをお願いし指導を受けている。災害時の対応マニュアルが整備され、併設の有料老人ホームとの協力体制も築かれており、20分以内に駆け付けられる職員の名簿も作成されている。また、3日分の水・食料の備蓄を確保している。	火災を想定した訓練は行っているが、今後、火災以外の地震や水害等を想定した訓練も実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した介護、プライバシー確保のために訪室時にはノックのあと、声かけてからドアを開けている。入浴や排泄介助時には羞恥心に配慮している。職員同士でご入居者の情報伝達を口頭にて行う場合は名前は伏せ、居室番号でやり取りするよう心掛け、プライバシーに配慮している。	年1回、接遇研修を行っており、利用者の人格を尊重しプライバシーに配慮したケアに努めている。周囲に配慮し職員間で利用者の話をする時は部屋番号で伝えたり、職員が居室で作業する際は、利用者にも居てもらおうようにしたり、また、希望のあるなしに関わらず同性介助を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間をかけてゆっくりと傾聴する事で利用者の思いや希望がきちんと表出でき、自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にとって過ごしやすい環境を整備し、一人ひとりのペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った身だしなみができるよう用意した衣服の選択を補助しながら支援している。訪問理容を推奨し、定期的な散髪や顔剃りで身だしなみを整えられるよう働きかけを行っている。 男性には毎日髭剃りの補助を行ったり、入浴時以外にも爪の確認などを随時行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の慌ただしさを無くせるよう職員はご入居者の隣に座り見守るようにしている。テーブル拭きや配膳、下膳、洗い物、片付けなど危険の少ない家事を見定め、ご入居者の能力に合わせて個々にお願ひし、それぞれに役割意識を持てるように促している。	テーブル拭きや配膳、食器洗いなど、できる範囲で利用者に行ってもらっている。献立は会社の給食事業部で立てているが、事業所でそれに一品追加することもある。利用者の好みを把握し、食べられないものについては代替食を用意したり、必要に応じておかゆ、刻み食、ミキサー食などを提供している。職員一人と一緒に食べ、他の職員は見守り、介助を行っている。また、誕生会やクリスマス会など、行事食も楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の咀嚼や嚥下能力や合わせ、ミキサー加工や刻んだりすることで食べやすくなるよう配慮している。食べられる量を個々にお伺ひし、意向に合わせた量の食事を提供している。お茶以外にもジュースやカフェオレ、紅茶など好みに応じて提供し、水分摂取を促している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに付き添い、ご自分のできる範囲で口腔ケアの動作ができるように声をかけ、見守りを行っている。必要な方は職員が介助している。定期的に歯科往診を依頼し、個々の診察に加え、歯科衛生についての相談を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADL、排泄習慣などを理解した上で、チェック表を活用しながら排泄間隔の把握を行い、自立に向けた支援を行っている。個々の意向や尊厳に配慮しながら紙パンツやパットを選択し、使用して頂いている。	チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な利用者にトイレ誘導を行っている。また、布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパットなど、その人に合った排泄用品を使用するよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝のヨーグルトやバナナを提供している。排泄チェック表を活用し、排便間隔を把握、便秘時には適宜トイレ誘導で排便を促している。慢性的な便秘には主治医の指示を頂き、下剤の内服などで便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりに合わせた入浴の支援を行っている。ご本人の意向やその日の体調、予定に合わせて午前か午後の入浴を選択し、ゆっくりと入浴できるよう支援している。個浴での1対1での入浴介助を行い、思い出話や悩み事などを職員に表出できる空間になっている。	介護計画において最低週2回入浴してもらうようにしているが、実際には2~3回入浴してもらっており、利用者の体調や希望により、午前か午後を選べるようにしている。入浴を拒否する利用者はおらず、職員とマンツーマンで会話し、リラックスした楽しい時間となるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりその日の状況、状態に応じて休息できるよう、室温、湿度、室内の明るさなどにも配慮している。日中でも居室で休んだり、リビングで休息したりと思い思いの過ごし方を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的・用法を記録したものを薬情報ファイルにし、適宜確認している。また、利用者別の医療情報カードを作成し、疾患や内服薬についての理解を深めている。体調の変化時には処方内容を含め主治医に相談している。 服薬管理マニュアルを整備し、誤薬防止として服薬時には薬袋の記載内容を読み上げ、職員間で確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者のその日の気分や体調を見極め、洗濯物たたみ、茶碗拭き、テーブル拭き、食事の配膳、下膳など日常にお手伝いをして頂いている。 塗り絵や習字、読書などの活動を日常的に支援し、気分転換を図っている。合同行事での運動会や歌合戦などはご入居者が一体感を持ち、協力して意欲的に活動する様子が見られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩や日光浴などに出たり、家族の協力を得る事でドライブや外泊などできるよう支援している。 花見や紅葉など季節ごとに外出計画を立てて実施している。 冬季など外出の難しい時期には併設事業所に散策に行くなどホーム外に積極的に出掛けられるよう支援している。	事業所周辺の公共施設や公園に散歩に出かけたり、年間行事計画として花見や紅葉狩りなどに出かけている。また、家族に協力をお願いし、ドライブや外出、外泊を行っている。冬場など外出できない時は、建物の階上に上がって景色をながめるなど工夫をしている。	近くに大きな公園があるなど恵まれた環境にあるので、散歩や買い物など、今後さらに日常的な外出を増やしていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には立替金のため本人の所持や預かりは行っていないが、本人や家族の希望により特別なケースにも対応している。現在は該当者なし。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の思いを大切に、手紙や電話のやり取りが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用空間をめざし、日々清掃・整頓している。季節感を感じられる飾り付けをしたり、ご入居者の写真を掲示し、日々の活動を思い出させ、楽しみを感じられる工夫をしている。リビングには暖色系の蛍光灯を使用し、暖かみに配慮している。	リビングとダイニングが別になっており、ゆったり過ごせる造りになっている。壁には行事の写真を貼ったり季節の装飾を施したり、和風庭園風に設えた中庭もながめられ、安らぎを感じられる空間となっている。また、気になる臭いはなく、加湿器を置くなど、温度や湿度にも気を配っている。構造上トイレの位置を間違いやすいので案内を掲示してわかりやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの関係性や状況にあわせて椅子を配置したり、少し離れた場所にベンチを配置したりと、一人ひとりが快適に過ごせるような居場所づくりを工夫している。リビングとダイニングを利用し、思い思いの場所で、自由に過ごせる環境ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の希望を反映した居室のレイアウトにしている。又使いやすさや安全にも配慮している。一部のご入居者には理解を得たうえで事故の再発防止の為、ご本人に向けた内容の貼り紙を貼らせて頂いている。	家族に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、本人、家族と相談しながら、その人らしい居心地良い居室造りに努めている。居室には家族の写真が飾られたり、仏壇や神棚を置いている利用者もいる。また、居室は掃除機やモップかけ、手すり等の消毒が定期的に行われており、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安心に配慮した環境づくりに努め、矢印を表示した貼り紙を目線の高さに合わせ掲示し、動線の分かりやすさに配慮している。アイランド型キッチンや吹き抜けの中庭など見守りしやすい空間を活用し、安全に生活できるよう支援している。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				